

第6回安曇野市新市立博物館整備方針検討委員会 会議概要

1	会議名	第6回安曇野市新市立博物館整備方針検討委員会
2	日時	令和8年3月17日(火) 午後4時から5時まで
3	会場	安曇野市役所 共用会議室306
4	出席者	笹本正治委員、百瀬新治委員、金井直委員、佐藤亜紀子委員、中村寛志委員、丸山亨委員、倉石あつ子委員
5	欠席者	横山はるえ委員
6	市側出席者	橋渡教育長、三澤課長、事務局、逸見係長、土屋主査、原明芳館長、平沢館長、寺島館長
7	公開・非公開の別	公開
8	傍聴人	0人 記者 3人
9	会議概要作成年月日	令和8年3月25日

会議事項等

○会議の概要

1 開会 (三澤課長)

2 あいさつ (橋渡教育長)
(笹本委員長)

3 協議

(1) 「安曇野市新市立博物館等整備に係る提案書」について
(事務局)

(別紙「提案書(案)」について説明(本会議録文末に掲載))

(委員)

平成27年度に新市立博物館構想が策定されて、それをまた今回検討した。これを何回重ねれば現実な提案ができるのか、見通しを伺いたい。

(事務局)

もしこの事業が順調に進めば、来年度に博物館の基本計画を策定して、令和9年度に基本設計、その次の年度は実施設計という形で建築に持っていくことも考えていたが、状況が厳しく、計画どおりには進まなかった。

提案書案にも記したとおり、財政状況が非常に厳しいなかでも財源確保に努め、財源の準備ができれば、具体化に移っていく。

(委員長)

太田前市長は、基金を積み立てるなどと考えていたが、具体的な動きに移る前に亡くなられてしまった。

先日、中山新市長に直接伺ったところ、新市立博物館を造る意向は示してくださった。だが今は、優先度の高い他の事業があり、すぐにはできないとのことだった。

ただし、平成27年度に「新市立博物館構想」を策定したあと、結局着手できなくなってしまっていた。だが今回は、新博物館を造ります、という意味を市長から示していただいた。

太田前市長の時とは状況が変わってきていることを前提としながら、それでも、博物館は造り直すべきだという方向性で、私たちは議論してきた。そして、中山市長と対談した際に、時期ははっきりしないけれども、新市立博物館を建設する、というお話はいただけた。その確認ができたということで、御理解いただけるということでよろしいか。

(委員)

よくはない。よくはないが、財源がなければどうしようもない。例えば、豊科郷土博物館のリニューアルということでは考えられないか。

(事務局)

財源を確保するにあたり、例えば、基金をいくら、何年間積み立てていくか、その目標とする年度にどのような補助があるか、そのような方向性がみえれば、新規建設への目途を立てることができる。だが建設の資金を積み立てるまでにはまだ時間がかかるから、豊科郷土博物館を改修して長寿命化する、ということは可能性として考えられる。

(委員長)

太田前市長の葬儀があった昨年12月3日、太田市長が御存命であつたら、私は太田市長と面談をして、候補地について相談しようと思っていたところだ。

ただ、大きく状況が変わったので、私たち委員会としては、新市立博物館を造るということをはっきり確認して、提案書としてつないで行く方向でもっていかなくてはならないだろうと思う。

事務局の説明に関わらず、いつまでにというより、どうしたら造ることができるのか、事務局も私たち委員も考えていかなければならない。

中山市長とお会いした際に、新市立博物館建設は財政的に無理だと断られるのではないかと心配していたが、そのような回答ではなかった。これで前に行けると、私は判断している。新市立博物館建設を前に進めるという意味でも、少しでも造りやすい条件にして提案した方がよいと思う。

(委員)

提案書では、これまでの議論を踏まえて、新規建設で4000㎡という数字を示してもよいのではないかなと思う。これまでの一連の積み上げの中で延床面積も出てきたと思うし、新規建設にしても、環境負荷やゼロカーボン等のことを考慮していけば、ある種のモデルになると考えられる。この建物が、単に博物館ということだけに留まらない、ひとつの建築のモデルを打ち立てていくこともよいだろう。

(委員)

何度も協議してきた結果としてまとまったものがこの提案ということなので、この形で出していけばよい。

市としては施設整備の優先順位もあると思うが、こちらの委員会で積み上げたものをしっかり聞いてもらって、判断するのは市長なり、市役所の皆さんというのは、ある意味では当たり前のことだ。

(委員)

この提案書は、これまでの議論の積み上げが濃縮された内容だと受け止めるので異論はない。

一方で、やはり何とか新市立博物館が出来上がってほしいという願いはある。そのためには市民の気運を高めていくことも大事。

委員の委嘱をいただいてから、博物館を見学したり、また個人的に博物館の方に質問したりしてきた。本当に工夫して様々な展示を行っていて、すごくありがたいと思う。市民がより多く利用するようになり、またもっと新しい多様な展示が見られるような博物館は欲しい。

私たちとしてもその一助となるような、今の博物館に関わる市民の人数を増やしていくような取組み等でお手伝いしたいと思っている。

(委員長)

実はこの会議の前に、この場で博物館協議会が開かれていた。協議会の委員の皆さんからも、それぞれの博物館が非常によくやってくれている、特に子どもたちに対する配慮は素晴らしいという意見が出された。だから、社会教育施設としての博物館はどうしても必要なものだと、きちんと訴えかけていきたい。

(委員)

最初、この検討委員会で、具体的な方針や場所、床面積、予算規模が全部決まって出せるものだろうと期待していたけれども、状況が変わったにしても、具体性に欠けた提案になってしまった。財源が確保でき次第ということだが、いつできるのか不安になる。

もうひとつ、私がこの委員会に呼ばれたのは、自然環境、自然系の部分が欠けていたから参加させてもらったということでしょうか。それで提案の2番目にも、安曇野特有の自然環境や景観ということが盛り込まれたということでしょうか。

(事務局)

おっしゃるとおり。

(委員長)

提案書案について、課題の3では「博物館に関心を持つ市民の増加や、安曇野市ゆかりの先人に対する市民の意識の向上への対応」と書かれているが、それに対する提案の3として「新市立博物館構想」で統廃合するとされた臼井吉見文学館等は、安曇野ゆかりの人物の顕彰施設として存続させ、活用していく」とある。

これは、「博物館に関心を持つ市民」に対する答えにはなっていないと思う。

(事務局)

提案の3の文章について、課題の3の後半の「安曇野市ゆかりの人物に対する市民の意識の向上」に引っ張られてしまった。課題3の前段にも対応するように文章を変えなくてはならない。

(委員長)

より多くの方に博物館に関心を持っていただいたり、安曇野市ゆかりの先人たちに対する興味を引くような展示や企画を考えます、というのが本来の筋ではないか。そのあたりで修正していただきたい。

(委員)

太田前市長は、亡くなる前日、豊科郷土博物館で友の会戦時生活部の展示を熱心に御覧になっていた。そのなかで、2点質問をされている。

ひとつは、「これらの戦時生活の展示を、会期が終わった後どうするのか、特に子どもたちに対してどうするのか」と聞かれた時、私は「資料を整理して各学校に配布し子どもたちに活用してもらおう」と答えた。太田市長は「そうだよ、それが一番いい」と言われた。これは、子どもたちを対象とするとした新市立博物館のコンセプトと一致している。

もうひとつの質問は、「ここに展示してある数十人の生々しい戦争体験の証言が揃ってきているので、それをどうするか」ということ。これには、「できるだけ文書館に保管し活用していく」と答えたら、「やっぱりそういう形が一番いい」と言われた。これも「新市立博物館構想」のとても大事な部分と一致している。

私は市長を見送りながら、具体化は新博物館につながると思っていたが、その晩に亡くなられた。このことについて、状況が変わったというよりも、足元が崩れてしまったような感じがする。

少なくとも、中山市長は前市長の政策を継承するというだけでなく、博物館の必要性と、それに対して具体的に一步踏み込んだ対応をいただいていると思う。

当面は、新市立博物館の基本計画が作れるかが最大の問題だろうと思う。これから先は、博物館施設を預かる市の担当者が市民の声を得て具体化する形で肉付けができていくということだろう。

とにかく今は、この提案書を中山市長にきちんと受け取っていただくことが大事かと思う。

(委員長)

私は少し前に、知覧特攻平和会館に行った。そこで思ったことは、大事なものは、特攻で亡くなった人たちが素晴らしいというのではなく、なぜ若者たちが戦争に行かなければならなかったのか、これからどうしたら平和が実現できるのか、ということ。

太田前市長が考えていたのも、いかにして博物館を造って、今の子どもたちが戦争に巻き込まれないようにしていくかということだろう。それは具体的な展示の中で、我々がきちんと考えていくべき課題だと思っている。

今の段階では、新市立博物館の整備方針に関する提案書なので、このような形で新博物館をぜひ建てていただきたいということを市長のもとに届けたいと思っている。

(委員)

提案書、課題として掲げられている2番目「新市立博物館が担う分野」というのは、課題を提起する文章になっていない。つまり、今の豊科郷土博物館が民俗中心であることが課題であるなら、そのように文を整理しないと伝わらないのではないかと思う。

また課題の3番目「博物館に関心を持つ人の増加」や「市民の意識の向上」というのは、エビデンスがあるということではどうか。調査等はされているか。

(事務局)

課題の3番目については、具体的には、出前講座の利用者が増えていたり、豊科郷土博物館等の講座等の参加者が増えているということである。

(委員)

それで十分かと思う。

その上で、先ほど委員長からも指摘があったように、3番目の課題に対する提案というのがちょっとずれていないか、ということに関わるのだが、博物館に関心を持つ市民が増加しているから、やはり先ほどの意見にもあったように、新市立博物館の意義について市民の理解や関心をさらに高めていくことが、こちらの提案として必要なのではないかと思った。

(委員長)

今までの議論では、ソフト面の充実が考えられていなかった。私も関わっている他所の博物館では、建物が造られる前から子どもたちに対してどのようにしていくかとか、男女共同参画のなかでどうあるべきかなどということも議論されていた。安曇野市は建物の話しかなかった。どうしたら市民に関心を持ってもらえるか、どう

すれば応援団がつかれるか、という部分があったらよかったと思う。

それをきちんと議論していくのが今後の次の段階であって、まだ建設ができないのであれば、いつまでにソフト面は準備できます、ということは、きちんと考えていかななくてはならないだろうと思う。

これまでの議論を含めてもう一度、委員の皆さんから意見を寄せていただきたい。

(事務局)

3月20日(金)までにメールにて事務局まで御意見をお願いします。

(委員長)

新市立博物館については、いつまでにできると言い切ることはできないけれども、新市立博物館を造ることは市長も了解していただいた。逆に言うと、すぐに造ることができない場合は、一体何をすべきかをもう一度事務局で考え直していかなければならない。

(委員)

この提案は結構だが、検討委員会はこれで終了ということか。提案書を出したら、もっと具体的なことが決まっていくと思っていたが、これで事務局に委ねてしまうということになるか。また再び委員会や準備室のような組織ができることになるか。

(事務局)

「新市立博物館構想」が策定された翌年の平成28年度に、文化課に新市立博物館準備室ができた。博物館係兼務ではあったがしばらくそういう組織があった。今後の組織がどうなるかについては、私どもも申し上げることはできない。

また将来的には、新市立博物館建設の財政的な目途がついた段階で、基本計画を立てることになる。他自治体の博物館の事例を見ると、基本計画の策定段階でも委員会を設置している例がある。

(委員長)

今後、事務局においても、多くの市民がどうしたら新市立博物館の整備に理解を示してもらえるようになるか考えてほしい。また新しい博物館がすぐにできないとしても、新博物館ソフト面について検討し、建設に向けては基本計画策定のための新しい委員会に入っていけるように進めていただきたい。

4 その他

特になし

5 閉会 (17:00)

安曇野市新市立博物館等の整備方針に係る提案書（案）

平成 27 年度に策定された「安曇野市新市立博物館構想」では、基幹となる市立博物館の新規建設と既存博物館施設の統廃合が提言されました。安曇野のゆたかな自然や、人々が伝えてきた様々な遺産を守り継承して、郷土の文化を育てる拠点として、新市立博物館建設の必要性が述べられています。

しかし、さまざまな制約や事情により、策定から 10 年が経過した現在、新博物館の建設には至っていません。またこの間、全国の博物館を取り巻く情勢も大きく変わってきました。

私たち安曇野市新市立博物館整備方針検討委員会（以下、委員会）は、令和 5 年度に安曇野市教育委員会から委嘱を受け、次の課題に対応するため、博物館施設の整備及び統廃合の方向性を議論してきました。

- 1 既存の博物館施設の老朽化や、資料の収蔵スペース不足への対応。
- 2 新市立博物館が担う分野。
- 3 博物館に関心を持つ市民の増加や、安曇野市ゆかりの先人に対する市民の意識の向上への対応。

当委員会では、これまで安曇野市が目指してきた「市民がゆたかな心をもって安曇野で暮らしていくこと」が実現できるように、安曇野市の文化の「顔」となる新たな博物館を整備することが必要であると考え、議論を深めてきました。そこで、博物館施設の整備方針について、「安曇野市新市立博物館構想」を尊重し、以下のとおり提案します。

- 1 新市立博物館は新規建設とし、延床面積 4,000 m²を基本とする。
ただし制約によりやむなく延床面積を減らす場合は、既存博物館施設等を活用して、資料の収蔵スペースを確保する。
新市立博物館建設に向けて、財源の確保に努め、目途がつき次第、具体化に着手する。
- 2 新市立博物館は、安曇野特有の自然環境や景観に育まれた民俗や歴史等、地域の昔と今と未来を総合的に学ぶ^{やみだ}館とする。
- 3 「新市立博物館構想」で統廃合するとされた臼井吉見文学館等は、安曇野ゆかりの人物の顕彰施設として存続させ、活用していく。

安曇野市をさらに魅力あふれる郷土へと創りあげていくためには、地域の貴重な自然環境や、先人が築き上げてきた文化遺産を再発見し、地域ゆかりの資料を収集・保存するとともに学びを深め、そのすばらしさを多くの人々と分かちあっていかななくてはなりません。新市立博物館が市民や子どもたちの学びの場となり、安曇野の魅力を広く発信し、後世に伝えていくための拠点として整備されることを願います。

令和 年 月 日
安曇野市新市立博物館整備方針検討委員会
委員長 笹本 正治